

# 東北大学フォーラム 2024 *in* 東京

7/13 2024  
SAT  
15:00- (受付 14:30-)

会場 AP日本橋 (東京都中央区日本橋3-6-2) 「東京駅」八重洲中央口より徒歩5分 ※オンライン配信あり

主催 東北大学、東北大学萩友会、東北大学基金、東北大学関東萩友会

後援 一般社団法人 学士会

どなたでもご参加いただけます

講演会  
15:00-

## 総長挨拶・講演

「東北大学が描く未来像」

東北大学総長／東北大学萩友会会長 富永 悌二



## 3つの視点で考える「災害」

最新  
科学

「21世紀における自然災害の激化とレジエンス社会の構築  
—東日本大震災、能登半島地震などの教訓を活かすには?」

東北大学災害科学国際研究所 教授(津波工学)／副理事(復興新生担当) 今村 文彦



企業  
事例

「震災からの復興への取り組み  
～参天製薬 能登工場における事例紹介～」

参天製薬株式会社 生産本部長 因間 寛哲



伝承

「災害伝承を多様性の視点から考える。」

東北大学災害科学国際研究所 准教授(災害文化アーカイブ研究) ゲルスタ・ユリア



## 学生活動報告

東北大学学友会  
アメリカンフットボール部  
HORNETS



## 基金・萩友会活動紹介

「社会とともに—東北大学の  
エンゲージメント紹介—」

副学長(社会連携・校友会・基金担当)／  
東北大学萩友会代表理事

長坂 徹也



懇親会  
(対面のみ)  
17:40-

ご参加者さま同士で交流いただけます。(立食形式)

会費 7,000円／萩友会プレミアム会員 6,000円 (高校生以下無料)

※当日受付にてお支払いをお願いいたします。

※定員を超える申込をいただいた場合には、締切前に申込受付を終了させていただく場合がございます。

詳細・お申し込み

申込締切

2024年7月7日(日)



お問い合わせ

東北大学 総務企画部 基金・校友事業室(萩友会事務局)

Tel: 022-217-5059 Email: alumni@grp.tohoku.ac.jp

## 講演詳細

オンライン配信あり

## ▶ 21世紀における自然災害の激化とレジエンス社会の構築 —東日本大震災、能登半島地震などの教訓を活かすには？

現在、地震等の活発化や地球規模の気候変動により自然災害が多発し激化している。その中で暮らしや地域社会を守り、過去の経験を活かし最新科学・技術を進めていく学際的研究がさらに求められている。将来にわたり、柔軟で回復力のあるレジリエントな社会の構築が必要であり、東日本大震災や最近の能登半島地震などの経験や教訓をどのように活かしていくのか？ 共に考えたい。

### 今村 文彦 プロフィール

山梨県甲斐市生まれ、甲府第一高校卒業、東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了。同大学院工学研究科附属災害制御研究センター助教授、同教授を経て、2014年より2023年まで災害科学国際研究所長。主な受賞はNHK放送文化賞(平成26年)、文部科学大臣表彰(科学技術振興部門 平成27年および令和3年)防災功労者内閣総理大臣表彰(平成28年)、濱口梧陵国際賞受賞(令和2年)。

## ▶ 震災からの復興への取り組み ～参天製薬 能登工場における事例紹介～

点眼剤の生産拠点として世界最大級の生産規模を誇る参天製薬能登工場は、令和6年能登半島地震で、生産活動の継続が一時困難となる被害を受けた。

医薬品という、市場への継続的かつ安定的な供給の責務を負う製品の製造を、一日でも早く再開させるべく取り組んできた我々の活動について、現地従業員への支援、製造現場の復旧対応、現場と本社危機対策機能との連携、BCP対策の重要性などの観点から、実体験を交えて紹介する。

### 因間 寛哲 プロフィール

東京都出身。1994年に東京工業大学修士課程を修了後、国内製薬会社にて、創薬化学、臨床試験研究、製造プロセス開発、経営企画の職務に従事。2019年10月に参天製薬に入社、2020年4月より現職、国内2工場、中国1工場と生産技術部門を統括。

オンライン配信あり

## ▶ 災害伝承を多様性の視点から考える。

日本は、災害伝承施設の設置や語り部活動の防災教育への組み込みに関して先駆的だが、災害の記憶と記録は、学術的あまり注目されていない。これは、災害におけるリスクは、年齢、性別、障害の有無、言語能力など、様々な要因に左右されるにも関わらず、すべての人に等しく影響すると誤解されているからかもしれない。本講演では、日本の災害伝承における記録の在り方と課題、そして防災教育におけるダイバーシティの重要性について、グローバルな視点から議論する。

### ゲルスタ・ユリア プロフィール

ドイツ ベルリン自由大学において日本学の博士号を取得。2019年より東北大学災害科学国際研究所に勤務。主な研究テーマはコミュニティ復興のための地域的文化的役割、原子力災害のコミュニティへの影響、災害伝承、伝承館の展示や語り部活動の分析等によつての文化的と集合的記憶等。

## 学生活動報告

オンライン配信あり

## ▶ 東北大学学友会 アメリカンフットボール部 HORNETS

2023年、全日本大学アメリカンフットボール選手権大会準決勝に進出。関東・関西勢が独占してきた決勝戦「甲子園ボウル」にあと一步と迫ったHORNETSの強さのワケとは。現役学生がこれまでの活動を振り返りつつ、今後の意気込みを語ります。

